

平成 31 年度全国学力・学習状況調査自校採点及び本採点分析シート（大月町教育委員会）

※本採点の結果を基に、正答率等を反映しております。（全教科）

令和元年7月24日

【小学校6年：国語】…正答率 80%以上、50%未満(西部教育事務所指標)の問題回答状況分析
集計結果【大月小：70】【全国：63.8】【高知県：64】

成 果			
設問番号	設問内容	正答率	領域関連・要因
1-(一)	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する	84.6	【書くこと5・6エ】
1-(四)イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の下線部イを、漢字を使って書き直す(友達にかぎらず)	84.6	【伝国5・6ウ(ア)】
2-(一)①	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】のAに入る、疑問に思ったことの①に対する答えとして適切なものを選択する	88.5	【読むこと5・6ウ】
2-(一)②	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】のイに入る、疑問に思ったことの②に対する答えとして適切なものを選択する	80.8	【読むこと5・6ウ】
2-(二)	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する	84.6	【読むこと5・6イ】
3-(一)	量職人への【インタビューの様子】のAに入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する	80.8	【話す聞く5・6エ】
3-(三)	【インタビューの様子】のイに量職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	88.5	【話す聞く5・6エ】
3-(四)	ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】のウに入る適切なものを選択する(苦うより慣れよ)	80.8	【伝国3・4ア(イ)】

①家庭学習や加力学習の取組により定着が図られている。

②文章構成や表現の特徴を捉える指導を説明文教材における学習にて繰り返し行われている。

③「聞くこと」の学習において、大切な言葉を捉えながら、話し手の意図を捉える指導が行われている。

④作文などの取組により、定量以上の文章を書く力がついてきている。

⑤言語活動が明確に位置付けられた指導が行われている。

課 題			
設問番号	設問内容	正答率	領域関連・要因
1-(三)	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中に、「2調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	30.8	【書くこと5・6ウ】(反応率%)4…38.5, 5…11.5, 6…7.7, 99…11.5 自分の考えを理由付けできていない。対象を決めて、目的や意図をもったまとめを書くことができていない。取り上げる項目やふさわしい表現で書くことができていない。ふさわしい表現で書けていても、取り上げる内容が不十分である。
1-(四)ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の下線部ウを、漢字を使って書き直す(かんしんをもってもらいたい)	15.4	【伝国5・6ウ(ア)】(反応率%)2…65.4, 99…19.2 同音異義語の学習が不十分。文や文章の中で、逐一配当漢字を書く癖が十分ではない。関心⇒「感心」もしくは「感懐」と書いている。

改 善 策	
①「書くこと」の指導において、情報の収集や内容の検討等を踏まえた学習構成を設定すること。また、他の教科と関連させて、書くことに慣れさせることが必要である。	
②複数の資料を読み取り、関連させて考える必要がある。	
③自分の考えを批判的に捉え、自らに問い返し考えさせる場面の設定をする。(他の教科と関連させる)	
④日記と作文の活用の工夫をする。(自己表現の活動と自己推敲及び相手意識を盛り込んだ文章構成等につなげる)	

問題の作成及び趣旨説明

小学校国語科の調査問題作成に当たって

1 調査問題作成の基本理念について

「全国的な学力調査の今後の改善方策について（まとめ）」（平成 29 年 3 月）では、「全国学力・学習状況調査の調査問題については、新しい学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、それを教育委員会や学校に対して、具体的なメッセージとして示すものとなるよう検討を進める。」としている。平成 29 年 3 月に公示された小学校学習指導要領（平成 29 年告示。以下「新学習指導要領」という。）は、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という三つの柱に基づいて再整理されており、これらの資質・能力の三つの柱は相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っている。平成 31 年度以降の調査問題では、こうした新学習指導要領の考え方への各教育委員会や各学校の理解を促すため、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するといった整理を見直して、一体的に調査問題を構成することとした。なお、「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）」（平成 18 年 4 月）では、具体的な調査問題の作成に当たって、「調査問題自体が学校の教員や児童生徒に対して土台となる基盤的な事項を具体的に示すものであり、教員による指導改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つとの視点が重要である」としていることにも留意する必要がある。以上の点等を踏まえ、本調査の調査問題は、新学習指導要領の考え方、国際的な学力調査の考え方や調査結果及び課題等も考慮しつつ、現行の小学校学習指導要領（平成 20 年告示。以下「学習指導要領」という。）に示された国語科の目標及び内容等に基づいて作成することを基本とした。

さらに、学習指導要領の総則「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」に示されている以下の点にも配慮した。○各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること。○各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること。○各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、児童の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。○各教科等の指導に当たっては、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること。○学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。

評価の観点については、国語科で行われている評価の五つの観点をを用い、「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」とした。なお、「国語への関心・意欲・態度」については、主に質問紙調査によってみることにしている。

【小学校 6 年：算数】…正答率 80%以上、50%未満(西部教育事務所指標)の問題回答状況分析
集計結果【大月小：71】【全国：66.6】【高知県：68】

成 果			
設問番号	設問内容	正答率	領域関連・要因
1-(一)	長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ	92.3	【図形 4(1)7f】 ①図や数直線を活用して問題を解決しよう とすることが増えている。
2-(一)	1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ	96.2	【数量関係 3(3)7】 ②グラフの読み取りなど、必要な情報を読み取る学習が身に付いてきている。
2-(四)	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6+0.5 \times 2$ を計算する	88.5	【数と計算 4(5)9・数量関係 4(2)7】 ③演算決定に向けての、もんだ場面での活動に成果が見られる。
3-(一)	350-97について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	88.5	【数と計算 3(2)9f】 ④振り返りを行うことで、自らの学びに気づけてきている。
3-(三)	被除数と除数にける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する	80.8	【数と計算 4(3)1f】
4-(一)	だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ	80.8	【数量関係 4(1)】

課 題			
設問番号	設問内容	正答率	領域関連・要因
1-(三)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く	42.3	【量と測定 5(1)7】(反応率%) 3…19.2, 5…15.4, 6…7.7, 7…3.8, 8…3.8, 99…7.7 示された図形の名称確認、理解及び面積の求め方が結びついていない。条件を満たした表現(量)になっていない。何を説明しているのか具体的ではない。結論に向けて、答えまで行きついていない。
3-(二)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなものかを書く	46.2	【数と計算 3(2)9・4(3)1】(反応率%) 3…7.7, 8…7.7 例示資料を捉えられていない。基となる考えから、必要な条件を結び付けて書くことができていない。同数でのかける、かけられる、わる、わられる等の表現が一部できていない。合わせて、商との関係性が明確になっていない。加法、減法、乗法、除法の意味、理解等が定着していない。

改 善 策
<p>①問題場面における数量関係や意味理解を基に、必要な方法を導けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面理解 ・図に表す 等 <p>②複数の資料を読み取り、関連させることで数量関係を見つけたり、見通しが持てるようにしていく。</p> <p>③問いの設定を大切にすることで、切れ目のない思考につなげる。</p> <p>④子供の経験知を授業に生かす。ゴールを見通せるように学習課題を設定し、子供同士のやり取りと対話を可視化し、終末で自己省察できるような展開を考える必要がある。</p>

問題の作成及び趣旨説明

小学校算数科の調査問題作成に当たって

1 調査問題作成の基本理念について

「全国的な学力調査の今後の改善方策について（まとめ）」（平成 29 年 3 月）では、「全国学力・学習状況調査の調査問題については、新しい学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、それを教育委員会や学校に対して、具体的なメッセージとして示すものとなるよう検討を進める。」としている。平成 29 年 3 月に公示された小学校学習指導要領（平成 29 年告示。以下「新学習指導要領」という。）は、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という三つの柱に基づいて再整理されており、これらの資質・能力の三つの柱は相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っている。平成 31 年度以降の調査問題では、こうした新学習指導要領の考え方への各教育委員会や各学校の理解を促すため、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するといった整理を見直して、一体的に調査問題を構成することとした。なお、「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）」（平成 18 年 4 月）では、具体的な調査問題の作成に当たって、「調査問題自体が学校の教員や児童生徒に対して土台となる基盤的な事項を具体的に示すものであり、教員による指導改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つとの視点が重要である」としていることにも留意する必要がある。以上の点等を踏まえ、本調査の調査問題は、新学習指導要領の考え方、国際的な学力調査の考え方や調査結果及び課題等も考慮しつつ、現行の小学校学習指導要領（平成 20 年告示。以下「学習指導要領」という。）に示された算数科の目標及び内容等に基づいて作成することを基本とした。

2 問題形式について

問題形式は、選択式、短答式、記述式の 3 種類としている。算数科の学習においては、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりして、自ら納得したり他者を説得したりすることができることが大切である。このことを踏まえて、次の 3 種類の記述内容に関わる問題を出題している。

(a) 「事実」を記述する問題（対応設問：1 (3), 3 (2)) 算数科の学習では、数量や図形、数量関係を考察して見いだした事実を、確認したり説明したりすることが大切である。「事実」を記述する問題では、計算の性質、図形の性質や定義、数量の関係の記述を求め、表やグラフなどから見いだすことができる傾向や特徴の記述を求めることが考えられる。また、「事実」を記述する際には、説明する対象を明らかにして記述することを求めることが考えられる。例えば、今回の調査問題では、1 (台形) で、示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することを求めた。また、3 (計算の工夫) で、示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することを求めた。

(b) 「方法」を記述する問題（対応設問：4 (3)) 算数科の学習では、問題を解決するために見通しをもち、筋道を立てて考え、その考え方や解決方法を説明することが大切である。「方法」を記述する問題では、問題を解決するための自分の考え方や解決方法の記述を求め、他者の考え方や解決方法を解釈して、その記述を求めることが考えられる。また、ある場面の解決方法を基に別の場面の解決方法を考え、その記述を求めることが考えられる。例えば、今回の調査問題では、4 (遊園地での待ち時間) で、示された場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、所要時間の求め方と答えを記述することを求めた。

(表：調査問題の枠組み)

主たる評価の観点	数学的な考え方 数量や図形についての技能 数量や図形についての知識・技能	
算数・数学の問題発見・解決の過程における局面	日常生活の事象	数学の事象
	日常生活の事象を数的に捉え、問題を見いだすこと	数学の事象から問題を見いだすこと
	問題解決に向けて、問題を焦点化すること	
	焦点化した問題を数学的に解決し、数学的な表現を用いて筋道を立てて説明すること	
	解決過程や結果を振り返り、意味づけや活用すること	解決過程や結果を振り返り、概念の形成や統合的・発展的に考えること

【中学校3年：国語】…正答率 80%以上、50%未満(西部教育事務所指標)の問題回答状況分析
集計結果【大月中：83】【全国：72.8】【高知県：71】

成 果			
設問番号	設問内容	正答率	領域関連・要因
1－(三)	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く	100	【読むこと・1オ】
2－(一)	話合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	91.3	【話す聞く・1オ】
3－(一)	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する	100	【書くこと・2エ】
3－(二)	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	87	【書くこと・1ウ】
①「読むこと」の指導の際に、言葉の意味や、助詞等の意味等に着目させることで、段落相互の関係やつながりを捉えることができている。 ②出来上がった意見に補足し、より良いものにしていくなど、対話を通して文章表現の力も身に付けてきている。			

課 題			
設問番号	設問内容	正答率	領域関連・要因
該当無し			

改 善 策
①文章構成や事実と解釈に着目し、要旨を捉え、正確に把握できるようにしていく。そして叙述を基にして、伝える価値のあることや自分の考えの根拠について考えるよう仕組む。 ②子供自身に相手意識や目的意識を明確に持たせ、言語活動に価値を見出させ、主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ・根拠と理由と主張を盛り込む（三角ロジック） ③言語活動と関連付けた学習過程にすることで、子供自身が学びの意味を自覚できるようにしていく。 ・子供と一緒に、価値ある学びの文脈を描く授業づくりを行う。 ④作文等の課題を定期的に設ける。

問題の作成及び趣旨説明

中学校国語科の調査問題作成に当たって

1 調査問題作成の基本理念について

「全国的な学力調査の今後の改善方策について（まとめ）」（平成 29 年 3 月）では、「全国学力・学習状況調査の調査問題については、新しい学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、それを教育委員会や学校に対して、具体的なメッセージとして示すものとなるよう検討を進める。」としている。平成 29 年 3 月に公示された中学校学習指導要領（平成 29 年告示。以下「新学習指導要領」という。）は、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という三つの柱に基づいて再整理されており、これらの資質・能力の三つの柱は相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っている。平成 31 年度以降の調査問題では、こうした新学習指導要領の考え方への各教育委員会や各学校の理解を促すため、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するといった整理を見直して、一体的に調査問題を構成することとした。なお、「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）」（平成 18 年 4 月）では、具体的な調査問題の作成に当たって、「調査問題自体が学校の教員や児童生徒に対して土台となる基盤的な事項を具体的に示すものであり、教員による指導改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つとの視点が重要である」としていることにも留意する必要がある。以上の点等を踏まえ、本調査の調査問題は、新学習指導要領の考え方、国際的な学力調査の考え方や調査結果及び課題等も考慮しつつ、現行の中学校学習指導要領（平成 20 年告示。以下「学習指導要領」という。）に示された国語科の目標及び内容等に基づいて作成することを基本とした。

さらに、学習指導要領の総則「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」に示されている以下の点にも配慮した。○ 各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること。○ 各教科等の指導に当たっては、生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。○ 各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、生徒の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。○ 各教科等の指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。○ 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。

【中学校3年：数学】…正答率 80%以上、50%未満(西部教育事務所指標)の問題回答状況分析
集計結果【大月中：71】【全国：59.8】【高知県：58】

成 果			
設問番号	設問内容	正答率	領域関連・要因
2	連立方程式を解く $y = -2x + 1$ $y = x - 5$	87	【数と式2(2)9】 ①事象に対する意味理解も学習を通してできている。
3	$\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める	82.6	【図形1(1)1】 ②資料等の特徴を適切に捉え、その特徴を数学的な見方・
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める	82.6	【資料の活用2(1)7】 考え方を働かせて表現させ、その根拠と結論が結びつい
7-(一)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	82.6	【図形2(2)7】 た考えを記述する力が身に付いている。
9-(三)	連続する4つの奇数の和が $4(2n+4)$ で表されたとき、 $2n+4$ はどんな数になるかを選ぶ	87	【数と式2(1)9】 ③方程式など、方法だけを理解するのではなく、解の意味 を関数と関連付けて捉えられている。 ④領域を超えて見方・考え方を成長させている。未習に対 して、試行錯誤させながら解決に向かわせることで、気づ きにつながっている。

課 題			
設問番号	設問内容	正答率	領域関連・要因
1	aとbが正の整数の時、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	47.8	【数と式1(1)7】(反応率%) 2…17.4, 3…8.7, 99…26.1 数の集合が正の整数の時、減法と除法はいつでも可能ではないことを理解し切れてい ない。数の概念についての理解が十分ではない。
6-(一)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差が表すものを選ぶ	26.1	【関数2(1)1】(反応率%) 3…4.3, 4…26.1, 5…69.6 座標の捉え方が十分ではないこと、2点の座標の差について正確に押さえられてい ないことが考えられる。また、その差について何を表しているか理解できていないこ とも考えられる。

改 善 策
<p>①計算の過程を振り返る場面を授業に位置付ける。</p> <p>②問題場面の数量関係を図や数直線等に表す。</p> <p>③より既習と未習を関連付けつつ、子供の経験知を基にして問題解決に向かわせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • これまでの学習過程を振り返り、活用できることに気付かせる。 <p>④グラフのみならず、様々な資料に触れる。それらを用いて、「何を表しているか?」「何を伝えたいか?」について、対話をしながら必要な情報を収集・整理し、解決の結果を説明させたり、書かせたりする場を設定する。</p> <p>⑤授業と家庭学習を関連付けて、個に応じた支援を継続していく。</p>

問題の作成及び趣旨説明

中学校数学科の調査問題作成に当たって

1 調査問題作成の基本理念について

「全国的な学力調査の今後の改善方策について（まとめ）」（平成 29 年 3 月）では、「全国学力・学習状況調査の調査問題については、新しい学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、それを教育委員会や学校に対して、具体的なメッセージとして示すものとなるよう検討を進める。」としている。平成 29 年 3 月に公示された中学校学習指導要領（平成 29 年告示。以下「新学習指導要領」という。）は、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という三つの柱に基づいて再整理されており、これらの資質・能力の三つの柱は相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っている。平成 31 年度以降の調査問題では、こうした新学習指導要領の考え方への各教育委員会や各学校の理解を促すため、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するといった整理を見直して、一体的に調査問題を構成することとした。なお、「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）」（平成 18 年 4 月）では、具体的な調査問題の作成に当たって、「調査問題自体が学校の教員や児童生徒に対して土台となる基盤的な事項を具体的に示すものであり、教員による指導改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つとの視点が重要である」としていることにも留意する必要がある。以上の点等を踏まえ、本調査の調査問題は、新学習指導要領の考え方、国際的な学力調査の考え方や調査結果及び課題等も考慮しつつ、現行の中学校学習指導要領（平成 20 年告示。以下「学習指導要領」という。）に示された数学科の目標及び内容等に基づいて作成することを基本とした。

（表：調査問題の枠組み）

主たる 評価の観点	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
文脈や状況	日常生活や社会の事象についての考察		数学の事象についての考察
数学の問題発見・解決における局面		数学的なプロセス	
I	事象における問題を数学的に捉えること	(1) 事象を数・量・図形等に着目して観察すること (2) 事象の特徴を的確に捉えること (3) 理想化したり、単純化したりすること (4) 情報を分類したり整理したりすること	
II	問題解決に向けて、構想・見通しを立てることで焦点化した数学の問題を解決すること	(1) 筋道を立てて考えること (2) 解決の方針を立てること (3) 方針に基づいて解決すること (4) 事象に即して解釈したことを数学的に表現すること (5) 数・式、図、表、グラフなどを活用して、数学的に処理すること (6) 数学的に表現したことを事象に即して解釈すること (7) 解決の結果を数学的に表現すること	
III	問題解決の過程や結果を振り返って考察すること	(1) 数学的な結果を事象に即して解釈すること (2) 必要な情報を選択し判断すること (3) 解決の過程や結果を批判的に考察すること (4) 解決の過程や結果を振り返り評価・改善すること (5) 統合的・発展的に考察すること (6) 事象を多面的に見ること	

【中学校3年：英語（書くこと等）】…正答率 80%以上、50%未満(西部教育事務所指標)の問題回答状況分析
集計結果【大月中：60】【全国：56】【高知県：52】

成 果			
設問番号	設問内容	正答率	領域関連・要因
1-(一)	ある状況を描写する英語を聞いて、その内容をも適切に表している絵を選択する	91.3	①授業等を通して、英文を聞かせたり、教師や ALT が英語で説明させたりなどしていることで、目的を意識して聞けていると考えられる。 ②英文で書く活動を、授業の中で明確に位置付けているため、短文であっても書くことができてきている。 ③英語に関する資料を比較的多く活用することで、英語と資料とを結びつけることができてきている。 ④普段の生活の中で、英語に慣れさせる環境設定ができている。
1-(二)	教室英語を聞いて、その指示の内容をも適切に表している絵を選択する	91.3	
2	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える	91.3	
3	天気予報を聞いて、ピクニックに行くのにも適する曜日を選択する	87	
5-(一)	ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句としても適切なものを選択する	82.6	
5-(二)	ある状況を描写する英文を読んで、その内容をも適切に表している絵を選択する	91.3	
5-(三)	月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する	82.6	
9-(一)①	文中の空所に入れる接続詞として、適切なものを選択する	82.6	

課 題			
設問番号	設問内容	正答率	領域関連・要因
4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	0	【聞く(り)】(反応率%) 3…43.5, 4…30.4, 99…4.3・無回答…21.7 正確に聞き取れていないことが考えられる。相手の意図に応じて、適切な表現を導けないことも考えられる。
7	チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで書き手が最も伝えたい内容を選択する	43.5	【読む(り)】(反応率%) 2…17.4, 3…26.1, 4…13 内容と書き手の意図を主体的に捉えられず、自分の意見等やその理由を表現しきれていない。
8	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く	0	【読む(り)】(反応率%) 4…65.2, 5…26.1・無回答…8.7 読み取りが十分ではないことが考えられる。内容と書き手の意図を主体的に捉えられず、自分の意見等やその理由を表現しきれていない。
9-(二)②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話がりつように英文を書く	34.8	【書く(り)】(反応率%) 3…17.4, 4…3.5, 5…8.7, 6…21.7, 7…17.4, 99…4.3・無回答…8.7 会話の流れから時制を判断し、過去時制の肯定文を書くことを理解している場合と理解していない場合に分かれている。また、基本的な語や文法事項等を理解して文章を書くことに課題があると考えられる。
9-(三)②	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	34.8	【書く(り)】(反応率%) 3…13, 4…26.1, 5…21.7・無回答…4.3 問題の指示文を正確に理解できていないことや主語の選択等はできているが、3人称単数現在形であることを捉えたり、適切な文法事項等を理解して文章表現したりすることに課題があると考えられる。
9-(三)③	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	43.5	【書く(り)】(反応率%) 2…8.7, 3…13, 4…13, 5…21.7, 9…4.3・無回答…4.3 問題の指示文を正確に理解できていないことや主語の選択等はできているが、大文字・小文字の使い分けや語法や語順の誤り、3人称単数現在形であることを捉えたり、適切な動詞の活用ができていないことが考えられる。
10	学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く	0	【書く(り)】(反応率%) 4…56.5, 5…4.3, 8…26.1, 99…13 2つの案を捉えられているか? (内容理解) それを捉えられても、対比して自分の考えを根拠を示しながら述べられているか? (批判力と自己表現力) 文章として記述できているか? (適切な量を書く力) 等に課題があると考えられる。

改善策

- ①教師やALTからのまとまりのある英文を聞かせ、慣れさせる。
- ②必要量の英文を聞き、答えたり、考えを伝えたり、書かせたりすることが必要である。
- ③英語に触れる機会を増やす。(新聞や映像、音楽 等)
- ④文字の獲得と語順については、日本語作文と関連付けることが望ましい。
- ⑤コミュニケーションの機会を増やす。(生徒同士、教師と生徒、ALTと生徒等のやり取りを「目的」を持って行わせる)
- ⑥授業や家庭学習の課題設定を工夫する。(テーマ作文、英語新聞調べ 等)
- ⑦小学校との系統性を意識した授業構成をする。また、課題解決に向かう課題の設定を行う。

【モデル】

- ・経験知を基に思考ツールを使って考えを形成する⇒・データや資料を活用し、情報を収集する⇒・情報を整理し、考えを再構築する
- ⇒対話を通して、意見を比較し、再構築する⇒聞き手を意識した表現活動を行う 等

問題の作成及び趣旨説明

中学校英語の調査問題作成に当たって

1 調査問題作成の基本理念について

「全国的な学力調査の今後の改善方策について(まとめ)」(平成29年3月)では、「全国学力・学習状況調査の調査問題については、新しい学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、それを教育委員会や学校に対して、具体的なメッセージとして示すものとなるよう検討を進める。」としている。平成29年3月に公示された中学校学習指導要領(平成29年告示。以下「新学習指導要領」という。)は、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という三つの柱に基づいて再整理されており、これらの資質・能力の三つの柱は相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っている。平成31年度以降の調査問題では、こうした新学習指導要領の考え方への各教育委員会や各学校の理解を促すため、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するといった整理を見直して、一体的に調査問題を構成することとした。なお、「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について(報告)」(平成18年4月)では、具体的な調査問題の作成に当たって、「調査問題自体が学校の教員や児童生徒に対して土台となる基盤的な事項を具体的に示すものであり、教員による指導改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つとの視点が重要である」としていることにも留意する必要がある。以上の点等を踏まえ、本調査の調査問題は、新学習指導要領の考え方、国際的な学力調査の考え方や調査結果及び課題等も考慮しつつ、現行の中学校学習指導要領(平成20年告示。以下「学習指導要領」という。)に示された外国語科(英語)の目標及び内容等に基づいて作成することを基本とした。

2 調査問題作成の枠組み

(1) 領域等と評価の観点について 学習指導要領に示されている4領域(「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」)に基づいて、その目標や内容を踏まえ言語材料や言語活動がバランスよく出題されるよう配慮している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。評価の観点としては、「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」に関わるものを出题している。なお、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」については、主に質問紙調査によってみることにしている。

(2) 調査問題について 調査問題の作成に当たっては、問題作成の基本理念に立った上で、新学習指導要領の教科目標の柱であるコミュニケーションを図る資質・能力の基盤を形成する観点から、基礎的な「知識・技能」を測ることに加え、それらを実際のコミュニケーションの場面においても効果的に使える状況まで活用できる「思考力・判断力・表現力等」も測ることを重視している。なお、この二者を「育成すべき資質・能力」とし一体的に捉えるとともに、複数の領域を統合した問題も作成している。

【中学校 3 年：英語（話すこと）】…正答率 80%以上、50%未満(西部教育事務所指標)の問題回答状況分析
 集計結果【大月中：36】【全国：30.8】【高知県：？】

成 果			
設問番号	設問内容	正答率	領域関連・要因
1-(二)	テレビを見ている 2 人の子供の絵を見て、何をしているのか答える	73.9	【話す(7)】現在進行形の文構造の理解が来ている。文の形が不十分であっても、現在分詞の意味や機能を理解している。
1-(三)	バスで登校する少年の絵を見て、交通手段を答える	47.8	【話す(7)】正しい強勢や音声の特徴から応答することに不十分な点が見られるが、文構造の理解は来ていると考える。主語＋動詞＋by～の形が来ている。

課 題			
設問番号	設問内容	正答率	領域関連・要因
1-(一)	カレンダーを見て、少女の誕生日を答える	26.1	【話す(7)】 3…8.7, 5…13, 6…17.4, 7…17.4, 99…4.3・無回答…13 語や文法等の理解が不十分であると考え。質問内容を十分に捉えられていないことと、基本的な表現理解（知識）が出来ていないと考える。
2	ユイコとアラン先生のやり取りを聞き、その内容を踏まえて会話が続いていくように、即興で質問をする	0	【話す(9)】 4…52.2, 99…21.7・無回答…26.1 正しい語の選択、文法事項等の理解が不十分で適切なやり取りになっていない。質問を聞き取ることはできていても、どのような応答（必要な語や文法等が引き出せない）が求められているのか判断できず、継続したやり取り（即興）が出来ていないと考える。
3	海外のテレビ局の要望に応じて、自分の将来の夢、またはやってみたいこと等を話す	30.4	【話す(9)】 4…30.4, 5…4.3, 6…30.4, 無回答…4.3 将来の夢について、2つの必要条件の関連性が弱く、正しい表現を用いられていないことも考えられる。しかし、自分の意見や主張を限られた時間で整理し、聞き手に対して分かりやすく話すことが出来ていると考える。将来の目標がはっきりとしているかどうかで回答が変わり、正確な文法表現ができていないと考えられる。

改 善 策
① 普段の授業からある程度の分量を一回で聞くことに慣れさせ、その後、聞き取ったことを短い時間の中で書く活動を行う。 ② スモールトークのように（教師と ALT、教師と生徒、生徒同士）でまとまりのある英文を短い間隔で質疑応答を繰り返す。 ③ 生徒に聞き取りの目的を伝えた上で活動を行う。（書く活動、話す活動も同様） ④ 授業や家庭学習でテーマ英作文や単語の習得を行う。（習得数は学校で検討することも有効） ⑤ ALT やインターネットなどを活用し、ネイティブな英語に触れさせることが大切である。 ⑥ 自分の事柄（目標、将来の夢 等）について具体的にしておく。他教科とも関連してくる。そのことについて伝え合い、質疑応答させるなど即興にも対応できるような場を設定する。それを教師、ALT の感想や生徒同士の評価を行うことも重要である。

問題の作成及び趣旨説明

(表：調査問題の枠組み)

測る力	外国語科の捉え	評価の観点	領域	評価の対象
育成すべき資質・能力	実際のコミュニケーションに活用できる程度に、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を用いることや、言語活動を行う基盤となる技能に関すること	言語や文化についての知識・理解	聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音声の特徴についての知識 ・ 内容の取り出しをする技能
			話すこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音声の特徴についての知識 ・ 文を生成する技能
			読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字や符号についての知識 ・ 内容の取り出しをする技能
			書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字や符号、語と語の区切りについての知識 ・ 文を生成する技能
	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを理解したり、それらを整理・統合して、英語で表現したり伝え合ったりなどする力に関すること	外国語表現の能力	話すこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問答したり意見を述べたりする力 ・ まとまりのある内容を話す力
			書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文のつながりなどに注意して書く力
		外国語理解の能力	聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概要や要点を聞き取る力 ・ 自分が考えたことや感じたことを、その理由を交えて書くことができるよう必要な情報を聞き取る力
			読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ あらすじや大切な部分を読み取る力 ・ 自分が考えたことや感じたことを、その理由を交えて書くことができるよう必要な情報を読み取る力